

第22回 経営フォーラム 2015 in Kitamatsuura

人と活かし、 企業を創り、 地方が輝く！

開催日：2015年 11月6日（金） 会場：松浦シティホテル

経営フォーラムニュース



衆議院議員

講師 山本有二氏



● 記念講演報告

報告者 稲沢 文員

第22回経営フォーラム記念講演に衆議院議員山本有二氏を迎え、「人を活かし、企業を創り地方が輝く」のテーマで講演をいただきました。

まず、日本が直面している深刻な人口問題と地方を元気にして行くための基本戦略を説明いただきました。

現在の東京圏一極集中の人口問題、都市・地方圏の人口移動問題と年代別転入超過数の状況等地域が持つ実情を踏まえ、多様な取組で投資と施策を集中し地方を元気にしていく必要があります。日本は若年層を中心に地方から大都市への「地域間移動」が激しく、地方の人口減少の最大要因は若年層の流出にある。東京人口集中の原因を高度成長、受験・就職、ブランド志向、大企業の集中や営業拠点集中などと分析され、対策として大学を地方に分散すること、就職口が地方にある事、第三次産業（サービス業）が育成されることで、現在食の美味しさは地方が既に勝っているため六次産業化を含め取組をしなければいけないと述べられました。

このままでは多くの地方自治体も消滅の可能性を残し、我が長崎県も人口移動が終息しない場合において、2040年には若年女性50%減少、疲弊する。又これ以上の一極集中は、出生比率の点でも少子化対策にならない（地方が出生率で高い数値を示す。婚姻率東京50%で結婚をして周辺地埼玉、千葉、神奈川県に移り住む）ので、万が一の有事（現在、安保法制の防衛環境の変化ミサイルの速度、精度・破壊力が進歩し、首都圏の危険大）や首都圏直下地震対策にも有効である。ドイツでは首

都ベルリンだけではなく地方にも人口が分散されており日本のような偏りはないとも語られました。

松浦での講演でしたので北松浦を例に取上げて地域の現状を分析いただきました。北松浦地区は長崎県の人口の約7%にあたり、約10万人が居住し、人口の推移は減少傾向、高齢化比率は約29%と超高齢社会で、特に平戸市は増加傾向が著しい。通勤通学時の移動手段の7割が自動車に依存し、増加中で北松浦の世帯当たり自動車保有台数は年々増加し、全国平均を大きく上回っています。（他の交通手段が少ない）高規格幹線道路整備では、我が国は都市間の到達性は、諸外国と比べて全体に低い水準で松浦・佐々間や伊万里・松浦の事業着手が待たれます。西九州自動車道のストック効果として水産物や観光振興、企業立地の広域展開が期待できます。長崎県産サバの東京卸売場の平均価格も西九州道路整備につれ、価格も向上し市場平均の4倍に上昇しました。観光振興として、地域活動と自動車道の開通との相乗効果が松浦・平戸地域への来訪者が増加、企業立地の面では西九州自動車道の整備につれて、県内工業団地が増加し、アジアへの近さ、少ない災害リスクを武器に延伸と共に国内有数の製造業が次々と進出



してきています。

松浦はマグロ養殖の最適条件を備えた場所であり、トラフグと共に取組施策を進める事が大切です。

地方での生き残り事例として、貸出業務に特化した経営方針の話がありました。広島市信用組合の山本明弘理事長による他金融機関との差別化戦略で、社員は顧客廻りする新規会社のBSを頭に叩き込んでから新規訪問し、積極的に限度額までの融資を3日間で判断するというスピード融資（リスク承知）です。預貸比率100%の信用組合で増収増益を続けている素晴らしい企業であり、理事長の経営手腕が素晴らしい人が全てであり、素材、お金も人生で生まれる。都会は都会で、比較優位の価値観にはならない。地方での主人公は自分たちであるということでした。

他に、デフレでまちが深刻、悪の根源として人口減少、住宅土地利用減少、シャッター商店街などを挙げられ、デフレが無いまちとして、小田急田園都市線、計画駅前、宮城県仙台市泉パーク（分譲開始時から値下がりしない住宅団地）、高知県梶原町の金の要らない市民による計画（町の計画道路で住民の話し合いによる片側のみセットバックして400mの道路拡幅完成し、綺麗な町）などの地方

再生成功事例をご紹介いただきました。最後に地方創生に必要なこと（これらを提供できる地方のみが必要とされる事）を締めくくっていただきました。

○計画的環境

地元の宝物を探し、信じて迷わない、「アマゾンでは買えないもの」こそ宝、自分の収益にとらわれず、顧客や200年後の美意識に込められる努力、町民全員が参加するまちづくり

○比較優位

進学・就職・趣味・交友関係などにおいて、都会と比較して納得できるものが得られるか

○CCRC

継続的リタイアメントコミュニティ、生活していく上で必要な施設やサービスがまちの中にそろっている。

○1000年後に残るもの

「生涯楽しめる」ことが重要
地方が生き残るためのヒントを多くいただきました。先を見据えた金の要らない計画、計画推進のための合意、人の無限の可能性を感じました。



第2分科会

地方創生に向けた官民協働のあり方

平戸市長 黒田 成彦 氏

ふるさと納税で寄付額日本一となった平戸市。その立役者となった平戸市長 黒田氏より報告をいただきました。

黒田氏は1960年8月生まれの55歳で、大学卒業後、議員秘書を務め、1999年4月県議会議員選挙に立候補するも、惜しくも落選。2002年県議会議員補欠選挙にて当選、その後も県議会議員を務められ、2009年10月平戸市長選挙に立候補し見事当選されました。

現在の平戸市は、市町村合併から10周年を迎え現在の人口は3万4千人。人口減少が他市町村より著しく少子高齢化が大きな課題となっています。その中において「ふるさと納税制度」における全国からの寄付総額が14億円を突破し日本一の実績を取られました。また物産戦略や観光戦略はメディアの注目を集めるなど、「お客様目線」を重視する黒田市政になってからの行政運営に今後とも期待が寄せられている状況です。

報告内容としては、「ふるさと納税」寄付額日本一の舞台裏に迫りながら、風通しのいい組織運営を分析され

新しい時代の官民協働のありかたについて述べられました。また、市長自らが率先して制定に携われた「平戸市中小企業・小規模企業の振興に関する条例」の意義や、若者・女性の能力を引き出す街づくりについて、地方創生をいかに進めるか等々平戸市トップリーダーとしての覚悟や地域経営理念を熱く語っていただきました。

当日もたいへんお忙しい公務の合間を縫い、当日の打ち合わせや昼食も一緒にできないという状況の中での開会となりました。

報告に入ると黒田氏の人柄や語り口、そしてなんとと言っても「ふるさと納税日本一」になるまでの内容に参加者誰もが食い入るように聞き入っていたのが印象的でした。若い職員の意見や提案を「よし良かった、その調子で頑張れ!」「あの責任は俺が持つ。好きなようにやってくい」と若手の意見を否定から入るのではなく、一度肯定して、その先の戦略を練り直しながら、責任の所在を明確にすることが大事だとお話されていました。

人を活かす、企業者にとっては社員を活かすという事でしょうか、まさに今回の経営フォーラムテーマの「人を活かす、企業を創り、地方が輝く!」を地でいった平戸市なのだと思います。詳しくは黒田氏直筆の「平戸市はなぜ、ふるさと納税で日本一になったのか?」をご参照いただければと思います。



第3分科会

ゼロからの承継!! 本当に大切なものは

～いち社員から社員と共に築いた経営道～

アーテック工房 株式会社

代表取締役 林田 雅博 氏 (大村支部)

林田さんの会社では、木炭を使用した住宅用塗料を主に販売されています。環境にやさしく調湿効果や防蟻、防蝕対策も万全なデータに裏付けされた素晴らしい商品です。

幾らか商品が良くても経営者次第で経営状態が大きく左右される事を強く実感された報告でした。

叔父である創業社長の突然の病死。創業家族との後継問題の調整等を経て、いち社員からの社長就任。もちろん創業家から事業承継も無く、経営経験も無い状態で船出をされました。しかし、社内外の不協和音と誹謗中傷が巻き起こり、社員の横領、特許権侵害等あらゆる災難が発生、まるでトラブルのデパート状態。

創業者のカリスマ的経営手法により順風満帆だった売上も僅か数年で約6億から8千万へと激減。

経営者として悩ま抜いていた時、ある経営者との出会いが再出発の原点となりました。今の状態を生んだのは全て社長の責任である。経営は「人」なり。と言う教えを受け、まずは社長自身学びを求め同友会を始めとするあらゆる研修等に参加しスキルを高めることに。その結果、経営方針を作成し社員と共有する事により、社内の雰囲気が変わり意識改革ができ、社員と共に成長する会社に変貌して行きました。

過去の多くの出来事が今では学びとなっており経営の糧になっているそうです。今では、商品力と人間力(社員と社長)を兼ね備えた素晴らしい会社になっています。林田さんの人柄と前向きさには皆さん共感されていました。ここまで経営環境を再構築された林田さんに脱帽です。

今後に至っては、足元の現状分析をしつかり行い経営サイクルを確立し、販売をグローバル化して、多くの事へ挑戦され売上拡大を目指すそうです。林田さんならば必ず実現できると確信しました。参加者全員が「経営は変化していくが理念や思いは承継し続けていかなければいけない」と改めて確認しました。

最後に林田さん、そして企画いただいたました大村支部の皆さま素晴らしい報告を有難うございました。



大いに盛り上がり、学びを深めた3つの分科会!

報告者 中村 寿弥



第1分科会

経営は、ひとり

～父から教わった経営哲学～

株式会社 愛しと一と

代表取締役 岩本 初恵 氏

「全女性が元氣になれば、日本の国は栄える。日本の国を元氣にするのは、沢山の税金を払える企業にあり。」今は亡き父の言葉を現実のものとしてお役に立てられたらという志を胸に、岩本初恵さんは1988年(株)

H R K (現…(株) 愛しと一と) を設立されました。

H R K では、健康食品からコラーゲン商品、そしてヘアケア商品などを世に生み出され、創業12年目には、九州で女性社長として初めて世界格付け機関スタンダード&ブライズから「A A」の評価を獲得されました。そして、2014年に佐賀県唐津市に唐津支店と併設した「野菜と豆腐料理のコーゲンバイキングレストラン愛しと一と」をオープン。同年には、多くの人を愛し続ける企業であり続けたいとの思いを込めて、(株) H R K から、「愛しと一と」へ社名を変更し、2015年には唐津に構える自社工場がJHFS (日本健康食品規格協会) によるGMP 認定を取得されました。このように、経営者を務める傍ら、生まれ故郷である佐賀県唐津市の唐津大使に任命され、唐津の発展にも力を注いでおられます。

報告の概要は、父は唐津の漁師で、自分の事よりとにかく他人の事を心配してお世話をする、まさに「利他の心」を地で行くような人物だった。その亡き父から教わったことを経営



にも生かしてきた。社員には、成功する人の5つの大切なこととして、しゃべる人・気が付く人・人のために行動する人・感謝の心・積極的な受け取り方を教えており、更に大切なこととしては「明るいこと」を話している。人・運・お金は明るいところに集まる。経営は人なり。父の教えが社員に伝わり、当社の成長を支えている。一という内容でした。

岩本さんの話に、出席者誰もが引き込まれるような様子で聞き入っていました。また、休憩時間には、岩本さんと名刺交換や書籍にサインを求める方の行列ができるほど、盛り上がった第1分科会でした。

座長による分科会報告

第2分科会



宮田 正一 会員 (大村支部)

第3分科会



首藤 洋一 会員 (大村支部)

第1分科会



松永 いづみ 会員 (北松浦支部)

山本元金融相が「浦」演では、自民党衆議院議員(高知2区)で元金融担当相の山本有二氏が「人を活かす、企業を創り、地方が輝く」をテーマに語った。

山本氏は、東京に人口が集中している現状を解説し、出生の低下や地方の人口減少を懸念し、地方創生を効果的に実行するため地方の環境を生かす▽都会より有利な点を打ち出す▽千年後も残るものを作る▽ことなどをテーマにした。また、地方創生を効果的に実行するため地方の環境を生かす▽都会より有利な点を打ち出す▽千年後も残るものを作る▽ことなどをテーマにした。

山本氏は、東京に人口が集中している現状を解説し、出生の低下や地方の人口減少を懸念し、地方創生を効果的に実行するため地方の環境を生かす▽都会より有利な点を打ち出す▽千年後も残るものを作る▽ことなどをテーマにした。

長崎新聞 11月18日掲載

懇親 交流会

●懇親交流会報告

報告者 津崎 幸三

懇親交流会は、司会の宮田京子さんの開会宣言で始まり、池野北松浦支部長の挨拶、来賓紹介、来賓祝辞と続き、友広郁広松浦市長に歓迎挨拶と乾杯のご発声をいただき祝宴となりました。松浦ならではのマグロの造

りが参加者の目をくぎ付けにしていたようでした。
余興は、松尾さん小川さんによるオペラ及びピアノ演奏、さらにフレイバーテンダー笠原さんによるカクテルづくりのパフォーマンスで大いに盛り上がりしました。

開催地ベナント引継式では、池野北松浦支部長より松尾代表理事、松尾代表理事から上谷大村支部長へとベナントが引き継がれました。

池野支部長の御礼、松尾代表理事の挨拶、上谷支部長の決意表明の後、井手実行委員長の万歳三唱にて無事大成功にて終了することができました。

多くの方々に協力いただき、素晴らしい懇親交流会を開催することができました。誠にありがとうございました。



経営フォーラムを終えて

報告者 井手 眞悟

第22回経営フォーラムin北松浦にご参加、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

至らない点多々あったかと思いますが、お陰様にて無事盛会裡に終了いたしました事重ねて御礼を申し上げますと共に、今回の登録が会員、オブザーバー含め237名(動員目標は250名)であり、あと13名でありましたが、御来賓の皆様をあわせ250名を超えるご参加ご登録をいただきましたことをご報告いたします。

私が同友会に入会したのがちょうど6年前の経営フォーラム(同友会まつり)でありました。その当時はまだ平戸松浦北松支部という呼称であり、その年は「分科会形式」ではなく記念講演と会外も含む「ブース出展形式」で行われ、思い切った企画であった事を思い出します。

あれから6年が経ち、これまで経営フォーラムに参加はしてきましたが、まさか私が実行委員長を仰せつかるとは思っていませんでした。今年度に入り実行委員会がスタートし13回の実行委員会を行うものの、中々思い通りに事が進まない事も度々ありましたが、実行委員、事務局員の皆さんの支援をいただきながらどうにか経営フォーラム当日を迎える事ができました。

今回の経営フォーラムにおきましては会場の都合上、三つの会場での分科会となりご参加いただきました皆さんにはバスでの移動、また会場の作り替えのための入れ替え等があり、たいへんご足労おかけ致しましたが、参加者皆様のご協力によ

り無事終了することができました。ありがとうございました。

また、テーマであります「人を活かし、企業を創り、地方が輝く」のもと三分科会と記念講演を開催させていただき、我々の同友会の理念でもありません「よい会社」「よい経営者」「よい経営環境」を作り上げるために学んでいた事が今からの事業、地域の発展に役立つことと祈念いたしますところです。

今回、経営フォーラムを開催させていただき一番勉強になったのは、私たち北松浦支部であったと思います。県内各支部の例会にキャラバンで出席させていた中で、例会の在り方など本場に多くのことを学ばせていただきました。それを今後の北松浦支部の活動に活かしていきたいと思えます。

最後に長崎県中小企業家同友会の発展と会員各位のご健勝とご多幸を心より祈念し、御礼の言葉とさせていただきます。誠にありがとうございました。



第22回 経営フォーラム 2015 in Kitamatsuura ご来賓の皆様

(順不同)

衆議院議員

参議院議員 金子原二郎事務所 秘書

参議院議員

長崎県 理事兼県北振興局長

松浦市 市長

長崎県中小企業団体中央会 佐世保支所長

日本政策金融公庫 長崎支店 中小企業事業統轄

日本政策金融公庫 佐世保支店長

商工組合中央金庫 佐世保支店長

十八銀行 松浦支店長

親和銀行 取締役常務執行役員

北村 誠吾 様

池田 介一 様

古賀友一郎 様

辻本 政美 様

友広 郁洋 様

山田登志雄 様

林 秀光 様

時岡新一郎 様

田口 恵介 様

中嶋 晴雄 様

田中 幹人 様

長崎県民信用組合 理事長

NBC長崎放送 佐世保支社長

松浦商工会議所 会頭

松浦商工会議所青年部 会長

北松浦青年会議所 理事長

佐世保市北部商工会 経営指導所長

平戸市商工会 会長

松浦市福鷹商工会 会長

佐々町商工会 会長

ながさき西海農業協同組合 代表理事組合長

長崎県立大学 経済学部 教授

小村 泰久 様

塚原 康人 様

高橋 博之 様

小松 弘昇 様

井芹 裕貴 様

小松 功 様

松永 雅司 様

大石 重信 様

前川 俊二 様

田淵 敏視 様

車 相龍 様